

お年寄りの幸せのために

◎高齢者と子どもの交流促進を

介護施設の職員に聞くと、お年寄りが一番喜ぶのは、こどもたちの訪問だという。すでに取り組んでいる施設もあるが、幼稚園、保育園と連携して、区が推進したらどうか。

区：かなり多くの施設で取り組んでいるが、年1回というところもある。幼稚園、保育園に働きかけていく。

せの：子育てサークルにも呼び掛けるという方法もある。ぜひ、お年寄りの楽しみを増やしてほしい。こどもたちのお年寄りを大事にする心を育ててほしい。

◎介護認定率、要介護4・5の重度者の数の推移は？

ころばん体操などの介護予防の効果を数値的にも検証する必要があるのではないか。

◎空き店舗対策に、こども・高齢者の居場所づくりを区民との協働で

品川区の商店街では子育てと商店街活性化のふたつのNPOが協力して、空き店舗で子育てサロン・一時預かり・短時間保育所の子育て支援事業がはじまっている。大型店舗の進出が続いて危機的状況にある商店街の活性化を。

◎リハビリで機能回復

年をとっても、リハビリで筋力は向上するといわれる。「どうせ年だから」ととあきらめている人が多い。もっと区が啓発を行い、リハビリや筋トレに積極的に取り組むべきでは。

◎メタボ検診での荒川区の標準値が厳しすぎる

と医師が指摘している。標準値から外れているといわれるだけで心配になり、ストレスがたまる。標準値を厳しくする必要はないのでは？

区：都の統一基準でやっている



私が指摘したのはヘモグロビンA1c。保健所のメタボ検診での血液検査の私の測定値は5.2%。正常値は～5.1なので、私は黄信号。糖尿病の疑いである。

保健師さんによると、食事と運動とストレスが三大要因だという。私の場合はやっぱりストレスですかねと言われて、私も心底心配した。しかし、4ヶ月後の区民検診の測定値は5.0。医師によると、5.8までは心配する値ではないから、荒川区は厳しすぎるとおっしゃった。それを伝えたかったのだが、まったく、理解してもらえなかった。

あまり検診の数字にとらわれるとかえってストレスが溜まる。「5.8までは大丈夫とも言われていますから、とりあえずは大丈夫ですよ。次の検診の時に、もう一度確かめてください」とでも言ってもらえたら、そんなに、気をもむこともなかったのだが……。

荒川区の標準値が、区民検診の検査機関のデータ表の標準値より、厳しいのは事実である。なぜなのでしょうかねえ??

◎精神病院から地域へ

日本は、精神病院の入院患者が非常に多いとされ、今後10年間で7万2000人の退院を実現しようという方針が出されている。

必要な施策として①生活支援センターの整備＝アゼリアの利用者が増加していることから増設も必要 ②24時間対応・訪問型の支援 ③当事者が発言すること、当事者による相談があげられるが、荒川区の今後の取り組みは？

区：4年前の推計で退院をめざすべき荒川区の患者は350人。入院医療機関のない荒川区では医療機関との連携がむずかしい。

せの：医療と福祉が連携して、24時間・訪問型の支援を充実すべき。区の窓口相談に来る区民も増加して、訪問しての支援が不十分ではないか。地域生活支援を充実してほしい。